

名原会ニュース

平成 28 年 8 月 18 日版

○ 特別寄稿	1
ご挨拶：元気が出るイメージ	相良 明男
5 年経って～原子力安全への取り組み～	山本 章夫
まだ現役？	石樽 信人
○ 活動報告	6
名原会総会	
卒業生との集い	
原子力オープンスクール	
○ 教室の近況	8
職員の異動	
池邊幸正名誉教授の受章祝賀会の開催	
教室 50 周年記念事業	
名古屋大学工学部・工学研究科の改組（案）について	
原子力人材育成事業	
○ 研究室便り	13
○ 会員の声	20
新任のご挨拶	吉橋 幸子
38 年間お世話になりました	釣田 幸雄
近況報告	平尾 茂一
○ 核院会便り	23
○ お知らせ	24
会費納入のお願い／各種証明書の請求について／名簿記載内容の変更・訂正／宛名ラベルの提供／ニュース掲載記事募集／個人情報の取扱について／名原会ホームページ URL 変更のお知らせ	
○ 会計報告	26
○ 編集後記	26

特別寄稿

ご挨拶：元気が出るイメージ

名原会会長 相良 明男

自然科学研究機構・核融合科学研究所/総合研究大学院大学

前回の寄稿は洞爺湖サミットの時、原子力エネルギー活用宣言が出され、その3年後に東北震災でした。奇遇にも今回は賢島サミットでしたが、九州震災と続き、心が痛みます。足下を見れば、大学等のミッション再定義です。そんな中で今回書き始めたのですが、やたら愚痴っぽいので、それらをポジティブに変換してみました（逆変換しないで下さい）。すると、元気が出るイメージがわんさか浮かんできました：

- ◇ 原子力や核融合志望の確信犯的な入学生がわんさか、
- ◇ 世界中からも熱い留学生がわんさか、
- ◇ それも数学に強い連中がわんさか、
- ◇ ソフトも強いが、ハードにもめっぽう強い連中がわんさか、
- ◇ 未は博士を目指すユニークな連中もわんさか、
- ◇ 高校はもちろん学内外からもリケジョ〔理科系女子〕がわんさか、

だんだんイメージが暴走しはじめて

- ◇ 大中小企業からの求人もいっぱい、
- ◇ そうなると企業連携や外部資金への展開もいっぱい、
- ◇ 国際会議主催や、各種表彰やプレス発表、TV報道もいっぱい、

ここまで来たら勢いに任せて（現在、核融合工学研究プロジェクトの総主幹やってますが、それとは無関係の積もりです、念のため）、

- ◇ 内外の各種委員会減らして学生指導時間がいっぱい、
- ◇ その代わり専門性の高い事務方さんもおいっぱい、
- ◇ おかげで書類書きが激減して研究時間もいっぱい、
- ◇ とりわけ江戸方面出張はTV会議にして空き日程がいっぱい、
- ◇ 当然として出張費と関連書類も減って研究力もおいっぱい、

・・・どうにも止まりませんが、それにしてもこの流れをキックオフするのは何でしょう？ 正直に言います、やっぱりリケジョでしょう！

では我らは何をしたら良いか？ 先ずは名大ホームページご覧あれ、原子力も核融合も影も形もなし！ 試しに原子力コースを調べたら、検索で量子エネルギー工学コースに入ってやっとでした。ですが、内容は高校生目線とは違う様な・・・ワクワクする動画も少ないし・・・幸いにも「卒業生の方へ」はパスワードも不要でオープン。そこで我らが「名原会ニュース」に、例えば「後輩へのエール」コーナーを設けて、後輩や高校生向けの現場最前線でのワクワクチャレンジ談を各界でご活躍の諸兄弟から頂き、カラー写真（出来れば動画も）アップして、しかも各講座案内の中でリンクして頂く手は如何でしょうか？ 勿論リケジョ大歓迎モードで、です！

5年経って～原子力安全への取り組み～

山本 章夫

(平成 28 年度教室主任)

平成 23 年 7 月 19 日発行の名原会ニュース No.27 にて、特別寄稿として、福島第一原子力発電所事故に関連し、「その日、世界は変わった」とのタイトルで原子力安全への取り組みについて文章を書かせて頂いた。

あれから 5 年。この「変わった世界」において、微力ながら原子力安全に関する取り組みを行ってきた。

原子力規制委員会が発足した後、2012 年の秋から軽水型動力炉の新規制基準、引き続き核燃料サイクル施設および研究炉に関する新規制基準策定に係わった。これらの規制基準は、従来から行ってきたように「重大事故が起きないように」規制することに加え、「それでも重大事故が起きるものとして対処する」ことを規制要求としていることが特徴である。そのため、設計基準で考えている事象に加え、いわゆる過酷事故への対応は、福島第一事故前に比べ、大きく充実するといえる。また、福島第一原子力発電所の安全確保については、原子力規制委員会の特定原子力施設・評価監視検討会にて、議論を重ねてきた。

日本原子力学会において、事故調査委員会に参加し、調査報告書のとりまとめや事故進展時に関して今後さらに詳細に調査すべき事項の整理などを行った。この事故調査報告書では、原子力安全の向上に関し、5 分野 50 項目にわたる非常に広い範囲の提言を行っており、昨年度、この提言への取り組み状況を包括的に調査し、その結果をとりまとめた。また、原子力学会標準委員会の活動として、原子力安全確保の基礎となる原子力安全の目的・原則について長時間かけて議論し、これを取りまとめた。さらに、深層防護の考え方や実装に関する議論を重ねるとともに、原子力安全の目的・原則から体系的に展開したプラント安全確保のための技術要件の検討などを行い、検討結果を報告書として出版した。

福島第一原子力発電所事故を受けて、愛知県では、原子力防災計画を大幅に改訂することになり、県および学識経験者の方と協力しながら、この防災計画の改定を進めた。

私の研究室は、「原子炉物理」を中核的な研究テーマとしているが、福島第一事故後、専門分野を「原子炉の物理」と広くとらえ、原子力安全に係わる設計計算の不確かさ定量化、過酷事故解析の簡易計算手法の開発、動的 PRA モデルの研究など、より原子力安全にシフトしたテーマに取り組みつづける。また、教育では、大学院生向けに原子力安全の基礎を理解するために必要な一連の講義を始めている。

平成 28 年度から原子力規制庁が開始した規制人材育成事業に応募し、名古屋大学から提案した「物理現象から原子力安全を構築・確保できる原子力規制人材の育成」が採択されている。これは、H29 年の工学部/工学研究科改組後のカリキュラム変更を視野に入れた人材育成事業の提案となっている(詳細は別記事参照)。この人材育成

事業を通じて、原子力安全に関する教育をさらに拡充させたい。

5年の間に取り組みが進んだ点もあるが、未だに非常に多くの方が長期的な避難を余儀なくされているなど、大きな状況の変化が見られない点も多く、また、福島第一の廃止措置については、まだ入り口に立ったところである。5年前に書いた特別寄稿の思いを忘れることなく、原子力安全への取り組みを進めていきたい。

まだ現役？

石樽 信人

この3月に名大大学院医学系研究科を定年退職した石樽信人という者です。私が原子核工学科に入学した1969年は、学内が騒然としていて、特に教養部は、「安保粉砕」、「沖縄勝利」、「スト決行」などを呼び掛ける立て看板で埋め尽くされていました。一方で、「反原発」を主張するものは見かけた記憶がありません。当時、進め方については様々に意見があったにしろ、原子力でエネルギーを賄っていくという基本的な方向性については、政治的立場を超えて人々の支持があり、また技術への信頼と期待もあったように思います。大学院では、放射体応用工学研究室（渡辺研究室）で森千鶴夫先生のご指導を得て、低エネルギー電子と物質との相互作用に関する実験的研究を行い、学位を得ました。このような縁で工学部での教育経験のない私に対しても本欄への寄稿が求められたものと拝察します。

大学院を出てから千葉市にある放射線医学総合研究所（放医研）で研究者としてのキャリアをスタートしました。核燃料サイクルのキー物質、プルトニウムについて、その生物影響研究に関するプロジェクトの立ち上げに参画し、アルファ放射体の内部被ばく線量評価を担当することが求められてのことです。松岡理先生をリーダーに、予算要求から始まり、研究施設の設計・建設、研究方法の模索、実験動物を用いた吸入プルトニウムの線量効果関係の確立に至るまで、放医研で過ごした27年間をこのプロジェクトの遂行に携わりました。一方で、松岡先生及びその後任の上司である稲葉次郎先生がICRP（国際放射線防護委員会）の委員をつとめられておられたことが縁で、ICRPの刊行物に関係した研究にも携わることができました。ICRPの体内動態モデルに基づいて開発した内部被ばく線量評価支援コードが、私の放医研退職後のことですが、2011年3月に起きた東電福島第一原発事故による住民等の内部被ばく評価に一定の役割を果たした、と聞いています。

2005年4月に放医研を退職し、青山隆彦先生のご紹介を得て、宮原洋先生の後任として医学部保健学科放射線技術科学専攻（現医学系研究科医療技術学専攻）に着任しました。キャンパスは東区大幸にあり、すぐ隣がナゴヤドームです。当専攻では、医学分野の放射線技術者の教育と共に、医学利用および原子力開発に関わる放射線防護線量評価の研究に携わりました。臨床系の先生が多い保健学科の中では、私の研究や存在自体に関心が持たれていないのかなと感じることもありました。私が携わってきた放射線防護の研究は、人間を放射線被ばくによる健康影響から守ることを目的とした分野であり、労働安全衛生という切り口から見ることもできるし、あるいは、公衆衛生という枠組みの中で説明することも可能であり、私自身は、ふところの深い「保健学」としての活動をしてきたと考えています。こうしたことのアピールを怠っていたのかなと反省しています。

現在は、自宅のある千葉県に戻り、古巣(?)の放医研（現在は量子科学技術研究開発機構の1部門）で非常勤の研究者として、主に緊急被ばく事故における個人被ば

く線量・計測の研究に携わっています。戦力外通告を受けることなく現役としてまだまだやっっていける、と思いたいのですが、さて？

活動報告

1. 名原会総会

平成27年10月17日(土)に開催された「ホームカミングデイ」と併せまして、名古屋大学(東山キャンパス)工学部5号館522講義室にて、名原会総会が開催されました。現職員、学生、卒業生の皆様方にご参加頂き、新役員の承認、平成24-26年度事業・決算の報告、平成27-29年度事業計画・予算案の承認がなされました。また、卒業生の皆様方を対象として、現職員より量子エネルギー工学コースの近況についても紹介いたしました。最後に、総会後に懇親会を開催し、今後の名原会の活動について卒業生の皆様方より貴重なご意見を頂きました。



相良明男新会長のご挨拶



名原会総会の様子

2. 卒業生との集い

平成28年2月22日(月)工学部5号館521号室にて「卒業生との集い」を開催いたしました。今年度は11の企業・団体から卒業生が13名、本学の学生35名、教職員2名の合計50名の参加がありました。

本集いも、平成14年度の初開催から、今回で12回目を数えました。これまで盛会に行うことができたのも教室を卒業された諸先輩方のおかげです。原子力分野は相変わらず順風とはいえない情勢が続いていますが、そのような中にありながら、今後のあるべき方向性を見据えて問題解決に取り組まれている諸先輩方の講話は、これからの自らの将来像を固めなければいけない本教室在生にとって大変参考になったと思います。また、近年は原子力そのもののみではなく、関連する他の技術分野にて活躍されている先輩方も増え、学生にとってもさまざまな視点から将来のビジョンを描くことにもつながっていることと思います。

今回いただいたご講演の中には「英語もさることながら日本語の能力も大変重要」とのご指摘もございました。このようなことは社会人の先輩から言われて久しく、大

学でも日常のディスカッションや卒業論文等を通じてコミュニケーションや正確な日本語表現を学習する機会が設けられてはおりますが、それが実際にどのように身についていくのかは、常々検証され、それに基づいて学習の方法を改めていくことが必要であることを感じさせられました。

来年度初頭には学科の改組が予定されておりますが、本集いは卒業生から現役生へメッセージをお送りいただく場として今後も継続して開催いたしたく思いますので、今後ともご参加・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

3. 原子カオープンスクール

2015年度も名古屋栄のでんきの科学館のフロアをお借りして、原子カオープンスクールを開催しました。元来五感を持って感じる事が困難な原子および量子線が示す現象について、年少者でも実験に直接参加することで興味を持って頂けるように、合計9テーマの実験デモを体験・見学して頂きました。会場入口での計数では来場者は約500名で、親子で参加され方が多数いらっしゃいました。2016年度も引き続き実施する予定です。ご協力いただきました関係者の皆様にお礼申し上げます。



展示の様子

教室の近況

1. 職員の異動

平尾 茂一	転出（福島大学環境放射能研究所・講師へ） (平成 27 年 8 月 31 日)
上野 裕	助教に着任（エネルギー材料工学講座） (平成 28 年 1 月 1 日)
釣田 幸雄	定年退職（放射線安全管理室） (平成 28 年 3 月 31 日) (4 月 1 日より加速器 BNCT 用システム研究講座に再雇用)
吉橋 幸子	准教授に着任（核燃料管理施設） (平成 28 年 4 月 1 日)
富田 英生	量子工学専攻へ配置換（エネルギー量子物性工学講座） (平成 28 年 4 月 1 日)
小島 康明	准教授に昇任（アイソトープ総合センター） (平成 28 年 4 月 1 日)
安藤 元良	文系総務課へ配置換 (平成 28 年 4 月 1 日)
道脇 みやび	Ⅱ系事務室へ配置換（情報科学研究科大学院係より） (平成 28 年 4 月 1 日)
渡邊 真太	助教へ配置換（エネルギー材料工学講座） (平成 28 年 5 月 1 日)

2. 池邊幸正名誉教授の受章祝賀会の開催

平成 28 年春の叙勲で、池邊幸正名誉教授が瑞宝中綬章を受章されました。

池邊先生は本教室(原子核工学教室)の創設期より放射線安全工学講座にて教鞭をとられました。放射線防護と環境放射能・放射線についての長年にわたる教育と研究の功労が認められたものです。関係者一同、心よりお祝いを申し上げます。

平成 28 年 7 月 17 日にこれをお祝いする受章祝賀会が池邊先生のご臨席を得て、池下のホテルルブラ王山にて開催されました。池邊先生のご家族、研究室の卒業生・元職員の皆様 60 余名のご参集を得ました。祝賀会は研究室同窓会の雰囲気ですぐ終始和やかに進み、学科創設時の卒業生から先生ご退官前の卒業生まで幅広い年代の卒業生が集い、先生にお祝いを申し上げ、久方ぶりの対面を楽しむこともできました。

3. 教室 50 周年記念行事

山本 章夫
(平成 28 年度教室主任)

今年、量子エネルギー工学教室(旧原子核工学教室)が 50 歳になります。これを記念いたしまして、下記のように教室 50 周年記念事業を実施する予定です。詳細については、同封されているご案内をご覧ください。

来年度(平成 29 年度)には、工学部・工学研究科の改組が予定されており、量子エネルギー工学教室も新しい名前に変わる予定です(別記事参照)。教室創設から 50 年という区切りの良い年に、皆様と一緒にこれまでの教室の歴史を振り返り、そしてこれからの未来を展望する議論をさせていただく良い機会になると考えております。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：2016 年 12 月 3 日(土曜日)

記念式典 14:00～ (受付開始 13:30)

記念祝賀会 16:30～ (会費 7 千円)

場所：名古屋大学 野依記念学術交流館

以上

4. 名古屋大学 工学部・工学研究科の改組(案)について

山本 章夫
(平成 28 年度教室主任)

平成 29 年 4 月に工学部・工学研究科の改組を実施することを名古屋大学として計画であり、現在の検討状況をお知らせします。詳しくは、工学部・工学研究科のホームページをご覧ください¹。

現在の工学部はⅠ系(化学・生物)、Ⅱ系(物理)、Ⅲ系(電気・電子・情報)、Ⅳ系(機械・航空)、Ⅴ系(土木・建築)からなる大括りの学科構成、工学研究科はこれらの系に対応した専攻およびエネルギー理工学、量子工学などの複合専攻からなっていますが、「工学全般の分野を網羅した学科・専科・専攻構成に再編」という方針のもと、以下のように改組することを検討中です。

<工学部>

- ・現在の5学科・13コース構成を、履修コースを廃止し、わかりやすい7学科に再編。
- ・Late specialization(※1)に対応すべく適切な年次で専門分野が選択できるよう、基礎教育に関して共通部分の多い分野を統合した学科構成に再編。

<工学研究科>

- ・複合専攻群を発展的に解消し、これまでの教育研究の強みを生かし、ミッションの再定義(※2)を踏まえた分野の見直しにより、専攻の新設と融合を行い、20の専攻・分野構成を17専攻に再編。

(※1)Late specialization とは、大学入学の際に専攻を決めるのではなく、大学において教養などの教育を受けながら専攻を決定する方式。

(※2)ミッションの再定義とは、平成 25 年に決定された「国立大学改革プラン」において実施されたもので、各大学の強み・特色・社会的役割(ミッション)を整理したもの²。

改組後の工学部・工学研究科は、図 1, 2 のようになる予定です。学部については、基本線として(旧)原子核工学科→(現在)物理工学科量子エネルギー工学コース→(予定)エネルギー理工学科となり、大学院については、エネルギー理工学、総合エネルギー工学、物質科学の3専攻に再編されることとなります。

詳細については、現在検討中であり、変更される可能性もあります。今年の12月3日に予定されている教室50周年記念行事(別記事参照)において、より詳しい情報をご紹介できると考えています。

¹ <http://www.engg.nagoya-u.ac.jp/whatsnew/reorganize.pdf>

² http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/12/18/1342084_11.pdf
(ミッションの再定義 工学 で検索)

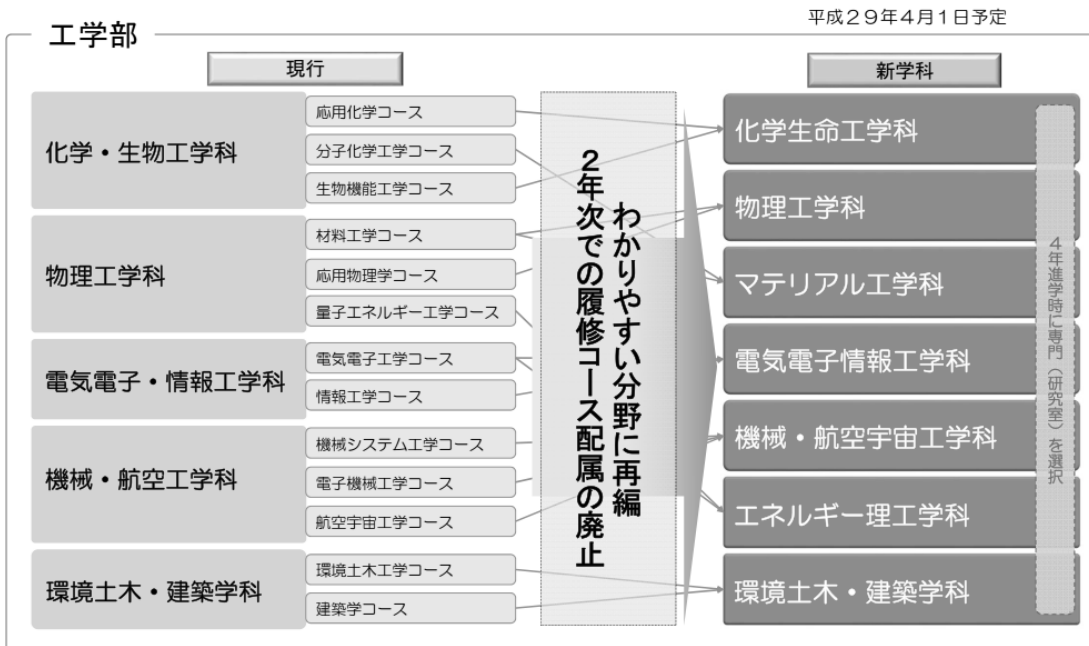


図1 学部の再編(案)¹

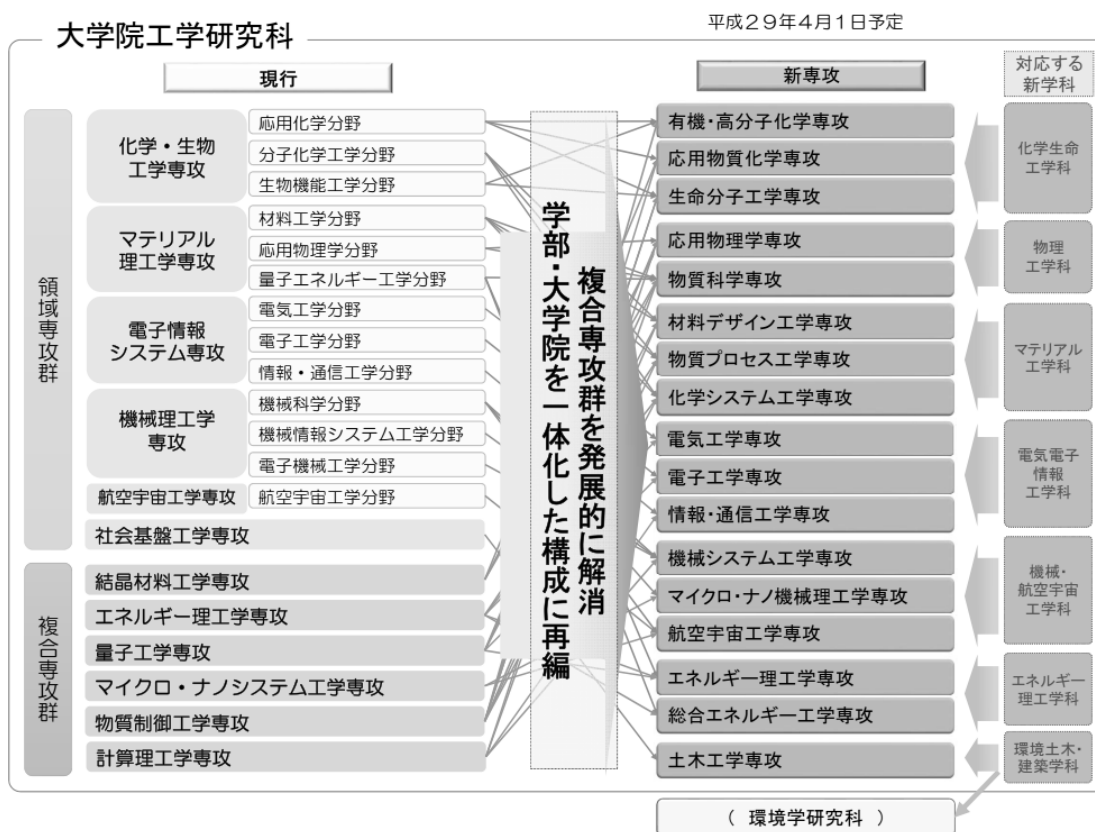


図2 大学院の再編(案)¹

5. 原子力人材育成事業(原子力規制庁)

「物理現象から原子力安全を構築・確保できる原子力規制人材の育成」

山本 章夫

(平成 28 年度教室主任)

本年度から開始された原子力規制庁の人材育成事業に、量子エネルギー工学教室から表題のタイトルで応募し、採択されました。本事業は、原子力安全に係わる人材育成で、以下の特徴を有しています。

- ・本事業は、原子力発電所内で発生する基礎的な物理現象の理解をベースとして、複雑な原子力プラントの挙動を把握・俯瞰し、もって原子力安全の確保に貢献できる原子力規制人材育成を目指すものである。
- ・原子力安全の考え方を体系的・俯瞰的に理解させるための講義及び原子力プラント内で発生する基礎的な物理現象、物理メカニズムを対象者に理解・体得させるための演習を実施する。オーダーエスティメーション能力を養うため、演習は原則として解析コードを使用しない手計算で実施する。コードによる解析は、複雑な物理現象の理解、予測モデルの限界の理解、手計算との比較などのために実施する。
- ・具体的には、航空・宇宙など他学術分野との協働による幅広い安全の講義、過酷事故進展演習、確率論的リスク評価演習、原子炉シミュレータを用いた演習、原子炉設計演習、熱流動演習、放射線測定演習、放射線モニタリング演習、現場感覚を習得するための原子力発電所・プラントメーカーにおける実習などを実施する。
- ・原子力工学を主とした工学系の基礎的素養を有する学部生・大学院生を主たる対象とするが、公的機関・民間企業などで原子力安全確保・規制に携わる社会人についても対象とする。
- ・目標とする人材像：①原子力発電プラントで発生する種々の基礎的な物理現象を知っているだけでなく、それらの原理を理解していること、②原子力発電プラントを個々の機器の寄せ集めではなく、有機的なつながりのある一体の複雑なシステムとして俯瞰できること、③プラントで発生するマイクロなスケールの物理現象がどのようなメカニズムによりマクロなスケールの挙動に影響を与えるのか、また、マクロなスケールの挙動がどのようにマイクロなスケールのメカニズムに影響を与えるのか、理解していること、④解析コードを用いずとも、プラントの振る舞いのオーダーエスティメーションが可能なこと、⑤予測解析の適正な使用範囲、適用限界を認識できること。

講義・演習については、社会人の再教育枠も設けておりますので、ご興味をお持ちの方は、ご連絡ください。また、皆様におかれましては、本事業への取り組みにご支援を賜りますよう、お願いいたします。

研究室便り

『講座名』 Tel/Fax 052-789-XXXX

担当教員 (◎：教授, ○：准教授, □：講師, 無印：助教)

エネルギー材料工学講座

『エネルギー機能材料工学グループ』 3607, 3792, 4689/4691, 3779

◎長崎 正雅, ○柚原 淳司, ○山田 智明, 吉野 正人

6号館へ居室を移し工学研究科・長崎研究室となり, 4年目となりました。新エネルギー分野への応用を念頭に, 量子ビームを用いた材料の創製, 表面・界面の評価, 機能性薄膜・ナノ構造の創製, 材料中の原子やエネルギーの移動の解析, などの研究を行っています。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度も, B4 が 6 名, M1 が 4 名, M2 が 7 名, D が 2 名の総勢 19 名の大人数となりました。昨年は, フランスより Guy Le Lay 教授が長期間滞在されるなど, 海外の研究者との共同研究に刺激を受ける機会にも恵まれました。また研究だけではなく, 研究室でサイクリングやボルダリングなど課外活動も行い, 学年を越えた交流ができました。量子エネルギー工学分野の研究室対抗フットサル大会, ソフトボール大会ともに優勝し, 本年度もフットサルでは 3 連覇, ソフトボールでは 2 連覇を目指しています。明るくにぎやかな研究室となっていますので卒業生の皆様, 名古屋にお越しの際には, ぜひお立ち寄りください。

エネルギー材料工学講座

『エネルギーナノマテリアル科学グループ』 3783, 3784, 3785

◎尾上 順, ○中谷 真人, 渡邊 真太, 上野 裕

名古屋大学での研究活動を開始してから今年度で3年目を迎えました。物理・化学・数学・材料科学・ナノテクノロジー・計算科学を駆使して, ナノ炭素を含む新奇ナノ物質およびナノシステムを創製し, これらを, 高効率な光電変換あるいは熱電変換機能を有するエネルギー変換機能材料やCO₂固定化・廃棄物処理などの環境制御・原子力基盤技術へ応用することを目標に研究活動に取り組んでおります。さらに, 以上の研究を通して21世紀の安全かつ持続発展可能な社会構築に中心的な役割を果たす人材を育成することにも力点を置いております。

「卒業生の皆様へ・・・」

本年度は6名の新メンバーが加わり, 教員: 4名, PD: 1名, D1: 1名, M2: 5名, M1: 5名, B4: 4名の総勢20名という大所帯となりました。研究室は工学部9号館(西棟)4階および原子核特別第一実験棟に所在しております。共に名古屋大学内では標高の高い場所に位置しておりますが, それ以上に高いモチベーション

をもって日々精進しております。研究室へのアクセスにやや難があり恐縮ですが、お近くにお越しの際には是非ともお立ち寄り下さい。

エネルギー材料工学講座

『核融合プラズマ理工学グループ』

4593/3935

◎藤田 隆明, ○岡本 敦, 有本 英樹

「地上の太陽＝核融合炉」のエネルギーを実現するために、(1) 小型装置によるプラズマ実験と大型装置プラズマ実験の解析、および(2) 核融合炉の核燃焼プラズマ解析と概念設計の研究に取り組んでいます。平成28年3月に東北大学から直線型プラズマ実験装置を原子核第一特別実験棟に移設しました。また、同年4月にTOKASTAR-2ではコイル系の改造を実施しました。これらの整備によりプラズマ実験研究をさらに展開して行きます。

「卒業生の皆様へ・・・」

4月に新人6名が加わり、学部4年生が3名、M1が6名、M2が4名となり、教員を含めて16人のスタッフです。8号館南棟の学生居室は机の配置を変えてなんとか13名が収まりました。卒業生の皆様、名古屋に来られた折にはご遠慮なくお気軽に研究室にお立ち寄りください。また、皆様からの後輩へのご支援・ご要望などございましたらお知らせ頂ければ幸いです。

量子エネルギーシステム工学講座

『エネルギー量子制御工学グループ』

3775/3608

◎山本 章夫, 遠藤 知弘

原子炉物理学の理論に基づいて、計算機シミュレーションを駆使することで、高精度炉心解析手法や未臨界度測定技術の研究などを行っています。また、原子炉物理学の技術を他分野に応用する取り組みも行っております。個々の学生が多岐にわたる研究テーマに取り組んで成果を挙げるとともに、日本原子力学会やアメリカ原子力学会の年会・大会をはじめとした学会発表にも積極的に参加しようと、高いモチベーションで頑張っています。

「卒業生へ・・・」

今年度は山本章夫先生と遠藤知弘先生の下、秘書1名、M2が5名、M1が3名、B4が3名の総勢14名(社会人Dr.を除く)で、日々研究などに精進しています。昨年度末にこれまで学生室を牽引してくださっていた先輩方のご卒業され、新年度は新たにB4の学生3名が研究室に加わりました。今年度もユニークな人材が揃い、これまで以上に賑やかな研究室として新年度をスタートしています。

研究室の詳しい様子は山本研究室のホームページから見る事ができます。メンバーのプロフィール等を更新していますので、是非そちらもご覧ください。

現在、当研究室がある工学部5号館は名古屋大学駅からすぐになっており、名古屋

大学駅からアクセスがしやすくなっております。名古屋へお越しの際は、ぜひともお立ち寄りください。皆様のご来訪を研究室一同お待ちしております。

量子エネルギーシステム工学講座

『原子力化学工学研究グループ』

3602/5936

◎榎田 洋一，○澤田 佳代，○杉山 貴彦

私たちの研究グループは、核分裂エネルギーや核融合エネルギーの利用のための総合基盤となる燃料サイクル・システムを実現することが最終目標であり、これに必須となる実用工学技術の設計および開発を目的としております。エネルギー変換には負の遺産であるエネルギー廃棄物の発生を伴いますので、その正統な管理（処理・処分・資源循環）技術の開発が重要です。特に、原子力エネルギー利用に伴う放射性廃棄物管理の研究に精力を注いでいます。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度の榎田研究室を構成するメンバーは、新たに学部生3名を迎え入れ、B4が3名、M1が3名、M2が3名、教員3名に加え、技術補佐員の水野さん、川瀬さん、事務補佐員の吉谷さんとなっております。現在の榎田研究室の所在は、工学研究科8号館南棟3階となります。平成23年度より、榎田研究室と前身としての山本一良研究室の二つの研究室は統合され、新しい一つの榎田研究室となっておりますので、榎田研究室の卒業生の皆様、山本一良研究室の卒業生の皆様、各位、名古屋にお越しの際は、是非ともお立ち寄り下さい。

量子エネルギーシステム工学講座

『原子核計測工学グループ』

3797/3843

◎瓜谷 章，○渡辺 賢一，○吉橋 幸子，山崎 淳

中性子用新規シンチレータの高度利用法の開発、新型放射線検出器および測定法の開発、放射線治療時の線量評価法の開発、超短パルスレーザーなどに関する研究を進めています。また研究室のHPも随時更新しております是非ご覧ください。（瓜谷研究室HP：<http://www9.nucl.nagoya-u.ac.jp/>）

「卒業生の皆様へ・・・」

今春は4年生が4名、さらにM1も2名加わり、M2が3名、M1が5名、B4が4名と合わせて学生総勢12名となりました。定期飲み会を重ねるごとに新加入の学生も研究室の雰囲気慣れ、すっかり瓜谷研の学生らしくなっています。お昼休みにはみんなで食堂に行くなど、毎年同様仲良くにぎやかに過ごしています。また、今年度、加速器中性子源施設が建設され、より幅の広い研究ができる環境となる予定です。これらのように、より快適な環境で楽しく研究生活を送っています。ぜひ機会がありましたら、研究室にお立ち寄りいただき、また、飲み会などにご参加下さい。メンバー一同、心からお待ちしております。

エネルギー量子物性工学講座

『量子放射線工学グループ』

4680/5127

◎井口 哲夫, ○富田 英生, フォルカ ソンネンシャイン

私たちの研究グループでは、電子やイオン、エックス線・ガンマ線・中性子などのエネルギー量子がもたらす情報を、最先端のハードウェア及びソフトウェアを駆使して、多次元かつ高精度に計測するための革新的なシステム開発及び量子ビーム計測応用への展開に取り組んでいます。

「卒業生の皆様へ・・・」

新たに研究室には B4 が 4 名加わり、学生総勢 15 名となりました。ドイツからヴィンセントさんとハンゼンさんを留学生として迎え、日々英語による議論や雑談が飛び交う研究生生活を送っております。また、研究だけでなく、核院会のスポーツイベントにも研究室一丸となって参加しており、優勝を目指しております。毎月の定例会や 5 月初旬に行われた OB 会など、井口研恒例行事により新メンバーもすっかり研究室に溶け込んでいます。

OB 会は年度末にも開催されますので、奮ってご参加いただきますよう、よろしくお願いたします。また、お近くにお越しの際には是非とも研究室にお立ち寄りください。井口研一同、心よりお待ちしております

エネルギー量子物性工学講座

『エネルギー物性解析工学グループ』

4683/5155

◎曾田 一雄, 加藤 政彦

表面界面ナノ構造における量子効果を中心とした新しい機能材料の開発に向け、放射光やイオンビームなどの高エネルギー量子ビームを用い、熱電材料や水素吸蔵材料などの機能材料の原子配列・電子構造と物性や反応を研究しています。

「卒業生の皆様へ・・・」

曾田研究グループは、学生 (MC : 8 名, B4 : 4 名), 教員ともども、学内イオンビーム表面解析装置を中心に種々の加速器施設へ飛び回りながら、学業と研究に励んでいます。産学行政一体となって整備した放射光施設「あいちシンクロトロン光センター」も、平成 24 年度に稼動開始となり、真空紫外線から軟 X 線領域のビームライン整備に力を注いでいるところです。イオンビーム表面解析装置室では、平成 26 年度の改修工事にともない、加速器 2 台 (バンデグラフ加速器, イオン注入器) が故障してしまいました。そこで、平成 27 年度は、教員・学生が一丸となって、これら加速器の修理に多忙な日々です。

曾田研究グループの研究室は 5 号館 5 階、イオンビーム表面解析装置室とユーザー控え室は原子核第一実験棟です。先輩の皆様には、ぜひ、研究室へ来て元気な顔を見せ、後輩の活躍にエールと将来のアドバイスを送ってください。皆様のご活躍を期待しています。

エネルギー安全工学講座

『エネルギー輸送工学グループ』

4693/4692

◎辻 義之, ○伊藤 高啓

エネルギーシステムの安全性と経済性の向上を目指す研究をすすめています。原子炉の高経年化問題として配管減肉の流動加速腐食の研究を長年続けてきましたが、ようやく新たな知見を得るに至っています。学外との協力研究では、受動安全性を高めた原子炉冷却技術の開発をすすめています。基礎研究の観点からは、壁面乱流、プラズマ不安定挙動、量子流体（超流動ヘリウム）、沸騰熱輸送、粘性指状不安定挙動や三相接触線挙動といった新たな知見を広める研究もおこなっています。

「卒業生の皆様へ・・・」

昨年度は、博士課程の学生が博士号を無事取得し、研究機関に就職しました。一方、新規にエジプトからの留学生（博士課程）が加わり、さらに国際色が豊かになりました。HPも適宜更新しておりますので、時間がありましたらご笑覧下さい (http://www.ees.nagoya-u.ac.jp/~web_dai2/)。みなさまのますますのご活躍とご発展をお祈りしております。名古屋にお越しの際には、是非、本研究室にもお立ち寄りください。メンバー一同、心よりお待ちしております。

エネルギー安全工学講座

『エネルギー環境安全工学研究グループ』

3781/3782

◎山澤 弘実, ○森泉 純

エネルギー生産・消費にともなう種々の環境問題について関連物質の動態把握・予測、放射線被曝防護を中心課題として、野外観測、室内実験、数値シミュレーションを駆使して研究しています。大気や地表面などの環境中での汚染物質や放射性物質の発生、移流・拡散、除去プロセスの解明を目指した研究、大気中および地表面の放射性核種濃度のモニタリング手法に関する研究、放射性エアロゾルの屋内動態に関する研究を進めています。

「卒業生の皆様へ・・・」

助教の平尾茂一先生が昨年8月末、福島大学環境放射能研究所講師に栄転されました。平尾先生、これまでありがとうございました。また引き続き研究と教育にご助力をよろしくお願いいたします。一方4月に、5年前に博士の学位取得のため在籍したAhmed Mostafaさんが研究員として、エジプトから再び来日されました。研究室では英語での議論と日常会話の機会が増え、学生たちも励起されている模様です。池邊先生の瑞宝中綬章受章は研究室とその出身者にとって大変喜ばしく、また励みになっています。

未来材料・システム研究所

『エネルギー材料物性工学グループ』

5200/5137

◎武藤 俊介, ○巽 一徹, 大塚 真弘

透過電子顕微鏡 (TEM) とそれに付随した各種分光 (EDX, WDX, EELS, CL) を駆使して, 10 年 20 年先に実用化される最先端材料の基礎研究を企業や様々な大学・公的機関と協力して進めております。最近では統計情報抽出を利用したビッグデータ解析をこれまで以上に重要視し, 複合電子顕微鏡分光とこれを組み合わせることで新たな物性診断の境地を拓き, ナノ領域顕微分光分析のトップランナーとなるべく日々努力を続けております。

「卒業生の皆様へ・・・」

今年度は M2 : 3 名, M1 : 3 名, B4 : 2 名とスタッフを合わせて総勢 11 名のメンバー構成となり, 昨年度より少し人数が増えました。9 月には, ヨーロッパの顕微鏡学会 (EMC2016) という一大イベントがあり, スタッフと M2 学生が参加予定です。研究室の所属名がエコトピア科学研究所から未来材料・システム研究所へと名前が変わりましたが, 変わらずやっておりますので名古屋大学近辺にお越しの際はお気軽にお立ち寄りください。

未来材料・システム研究所

『環境機能材料工学グループ』

052-747-6828 (八木) /

052-789-5862 (小川) /

052-789-5855 (学生部屋)

◎八木 伸也, 小川 智史

”環境材料の創製とその物性評価” というテーマのもとに, 持続可能なエネルギーシステムの実現に不可欠な機能性材料の開発と評価を行っております。主に金属ナノ材料の作製と, 赤外から硬 X 線までの様々な波長の光を用いた物性評価を行っており, 物理学・化学・生物学といった垣根にとらわれない研究活動を推進しています。

「卒業生の皆様へ・・・」

昨年度末に未来材料・システム研 P D の塚田千恵さんが日本原子力研究開発機構に就職され, D 3 の水谷剛士君が博士号を取得して卒業されました。今年度の八木研究室は教員 2 名, 研究生 1 名, 博士課程学生 1 名, 修士課程学生 1 名, 学部 4 年生 3 名の計 8 名と, 一時期に比べるとやや寂しい状態にありますが, 日々の研究活動に邁進しております。研究室の近所に新しく「研究所共同館Ⅱ」が竣工し, われわれのいる建物も「研究所共同館Ⅰ」と改名されました。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

アイソトープ総合センター

『応用核物理学グループ』

2569/2567

◎柴田 理尋, ○小島 康明

原子核の核構造および崩壊様式の解明を行うことで、核データベースの構築を目指しています。そのために、京都大原子炉や原子力機構の加速器に設置されたオンライン同位体分離装置などを使い、不安定核に対する β 線および γ 線計測を行っています。「卒業生の皆様へ・・・」

M2：1名，M1：2名，B4：2名のメンバーで研究活動を行っています。研究室内での変化は特になく，あるとすれば小島先生の居室が5階から3階へと移ったことです。また，アイソトープセンターの旧館が取り壊され，新しい建物の建設工事が進んでいます。来年度のはじめには完成し，研究室も広くなる予定ですので，研究活動もさらに活発になるのではないかと期待されます。

工事の関係上少し騒がしい日もありますが，名古屋にお越しの際は，ぜひお立ち寄りください。

支援組織

○ [材料量子エネルギー事務室]

3399/3225 道脇みやび（教務，量子エネ），大野陽子（材料），
宮地江里子（非常勤職員），北原友美（非常勤職員）

新任のご挨拶

吉橋 幸子

平成 28 年 4 月 1 日付で核燃料管理施設の准教授に着任いたしました吉橋幸子と申します。マテリアル理工学専攻量子エネルギー工学分野原子核計測工学グループ（瓜谷研究室）を併任させていただき、現在はホウ素中性子捕捉療法（BNCT）のための加速器型中性子源開発に関わる研究に従事しています。

大阪大学大学院工学研究科電気工学専攻を修了後、大阪大学自由電子レーザー研究施設研究院、大阪大学環境・エネルギー工学科助教、福井工業大学原子力技術応用工学科准教授を経て、現職に至りました。私は、生まれと育ちは愛知県ですが、長い間この地から離れており、この度、愛知県に戻る機会を与えていただけたことをとても感謝しております。

学生の頃は、電磁波やレーザーを用いた計測工学が専門で、プローブや計測機器を自作し、マクロ（大気電気）からミクロ（生体分子）まで様々な測定対象で実験を行ってきました。これらの実験は、時には数週間や数ヶ月間の野外観測もあり、いくつかのトラブルに見舞われ自信を無くすことも多々ありましたが、非常に良い経験をしたと思っています。最近、モノに溢れ実験装置も良いものがたくさん汎用され、自分達でモノを作る機会が少なくなり、少し物足りなく感じていましたが、名古屋大学に着任し研究室の学生たちがいろいろ考え、物を作りながら実験をしているのを見て、たくましく感じると共に、非常に良い環境に入らせて頂けたことを嬉しく思います。

大阪大学助教時代から高速増殖炉や核融合開発研究をスタートさせ、ナトリウムやリチウムといったアルカリ液体金属の流動計測に関わる研究から加速器型中性子源のターゲット開発にどっぷりと漬かることになりました。加速器型中性子源の中でも私が携わってきたのは国際核融合炉材料照射施設（IFMIF）です。IFMIF は高速で流れる液体リチウム流に重陽子ビームを照射し、核融合炉を模擬した 14 MeV で高いフルエンスの中性子を得るための装置で、このプロジェクトでは主に液体金属リチウム流の安定性に係る研究を進め、数年前には世界最大ともいわれる IFMIF 用の液体金属リチウム循環装置の建設にも関わりました。4 年前より液体リチウム技術の新しい展開として BNCT 用加速器型中性子源開発を進めてきました。名古屋大学では、BNCT プロジェクトを成功させるためのリチウムターゲット研究を行うと共に、これに伴う放射線計測や中性子計測に関わる研究を進めていきたいと思っています。また、このような原子の医療応用という研究を通して、たくさんの若い方に原子力・核融合工学に興味をもってもらい、原子力工学に光が灯るように、研究・教育活動を頑張っていきたいと思っています。至らぬ点も多々あるかと思いますが、何卒ご教授・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

38 年間お世話になりました

釣田 幸雄

1978 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日までの 38 年間、文部技官として当教室のお世話になりました。また、4 月 1 日からは名古屋大学大学院工学研究科加速器 BNCT 用システム研究講座に技術補佐員として着任させて頂き、原子核第 1 特別実験棟内に設置されたダイナミトロン加速器室(旧 KN3750 ヴァンデグラフ加速器室)で仕事をする事になりました。結果として引き続き当教室に在籍させて頂きます。

1978 年の着任時より加藤研究室(応用原子核物理学講座)に所属し、主に KN2000 ヴァンデグラフ加速器を利用した研究開発のお手伝いをさせて頂きました。当該実験室には色々な真空装置が設置されていましたが、私も見様見真似で幾つかの真空装置を、加速器室に隣接して設置されていた原子核工学工作室で製作しました。ここで旋盤・フライス盤・ボール盤・帯鋸盤・弓鋸盤等、多くの工作機器を初めて使いましたが、特に TIG 溶接による真空槽の製作には大変苦労しました。

1993 年以降については、加藤敏郎先生が工学部の放射線取扱主任者を担当されていた関係で、そのお手伝いをさせて頂くことが私の仕事の中心となりました。当時工学部には 13 (6 号館 RI 実験室、強放射能第 2 実験室、原子核第 2 特別実験室、同位体分離実験室、コバルト 60 ガンマ線照射室、原子核第 1 特別実験室、原子核第 3 講座実験室、原子核第 4 講座実験室、材料機能第 5 講座実験室、強放射能第 1 実験室、イオンビーム表面解析装置室、中性子発生装置室、100 万ボルト電子顕微鏡研究室)の放射線施設が設置されており、それら施設と放射線業務従事者の法定管理が主な業務内容です。2016 年の退職時には、放射線施設は 7 (同位体分離実験室、コバルト 60 ガンマ線照射室、中性子照射学生実験室、中性子実験室、イオンビーム表面解析装置室、中性子発生装置室、ダイナミトロン装置室)に減少していましたが、従事者の数は毎年増加し、およそ 700 名にもなっていました。その間、放射線取扱主任者は、加藤敏郎教授→森千鶴夫教授→河出清教授→飯田孝夫教授→瓜谷章教授→曾田一雄教授へと引き継がれ、現在に至っています。放射線に関しては全く知識の無い私でしたが、放射線管理室業務の遂行により多くの経験と知識を得させて頂きました。長期間にわたりご指導を頂きました先生方に、心より御礼申し上げます。

退職後の 4 月からは、ダイナミトロン加速器(2.8MV, 15mA)新設業務に携わっております。この加速器は、静電型としてはずいぶんと大型(直径 2.8m, 長さ 7.5m, 重量 6.5t)であり、大電流の得られることが特徴です。主に ${}^7\text{Li}(p,n){}^7\text{Be}$ 核反応により生成される中性子を利用して、ホウ素中性子捕獲療法(Boron Neutron Capture Therapy)の基礎研究を行う事を目的としています。過去に、ヴァンデグラフ加速器を利用させて頂いておりましたので、その経験を生かせればと思っています。

私にとっては新しい仕事での再出発であり、いたらぬ点多々あり、ご迷惑をおかけするかもしれませんが、精一杯頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

近況報告

平尾 茂一

2015年9月より福島大学環境放射能研究所（IER：Institute of environmental radioactivity）に講師として着任しました平尾茂一です。2010年8月より、山澤研究室で助教として研究および学生指導を行いました。学生時代から通算すると、名古屋大学では14年間お世話になったこととなります。その間、当教室の先生方から原子核工学についてたくさんのお話を教えていただきました。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

さて、私が現在所属している環境放射能研究所は、東京電力福島第一原子力発電所事故後の2013年7月に設立された新しい組織です。研究所のミッションは、温帯多雨地域の環境放射能の動態と長期にわたる影響を科学的に解明することです。国際的な視野に立ち、環境放射能研究に関する知見を、世界へと発信することを目指しています。研究所のメンバーも多国籍で、現在、アメリカ、イギリス、ウクライナ、バングラディッシュから計6名の研究者が集まっています。研究所に一歩足を踏み入ると、英語をはじめ、様々な言語が飛び交っています。会議等も、ほとんど英語で行われますので、日々勉強の毎日です。

福島に身を置くと、東日本大震災からの復興の様子を身近に感じることができます。空間線量率の低下による住民の帰還可能な地域の拡大、JR常磐線の一部区間の運行再開、農作物・水産物の出荷制限の解除等が、すぐ目の前で起こっています。その一方で、基幹となる産業の再生、地域医療等のインフラ整備等、復興に向けた課題は山積みです。放射能の生態系・環境への影響に関する課題は非常に重要ではあるものの、復興に向けて解決しなければならない課題の一部にすぎません。

現在、私も含め、研究所の若手4名で進めているプロジェクトでは、学術的視点からの放射能モニタリングだけでなく、より地域住民の目線で、モニタリングする対象・場所を検討し、住民の帰還時の不安解消に貢献できるように努力しています。私たちの研究が復興のため、少しでも力になればと願ってやみません。

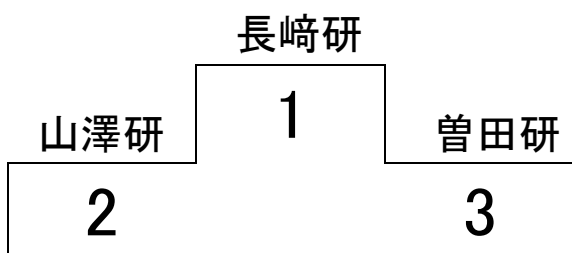
研究所での生活は、初めて知る研究分野もあり、新鮮であり刺激的な毎日です。福島で研究するという、貴重な機会をいただき、これからも試行錯誤しながら自分の研究の幅を広げていきたいと考えています。

研究所の周辺は、とても緑豊かで、自然の豊かさが感じられます。（熊がでるといふ噂もあり、これもまた刺激的な毎日です。）2017年4月には、新しく6階建ての研究所本棟が完成する予定です。最寄りの駅、JR金谷川駅からは徒歩10分弱、緑を眺めながら歩くとすぐ到着です。皆様、お近くに来られる予定があれば、是非お立ち寄りください。

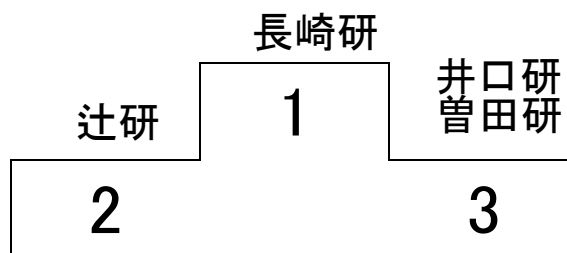
核院会便り

平成 27 年度核院会では例年のように名大祭での研究室紹介，研究室対抗のスポーツ大会等を行いました。名大祭では各研究室が一般の来場者の方々に研究内容の紹介を行い，展示会場は参加者で大いににぎわいました。また研究室対抗のフットサル，ソフトボール，リレー大会を行い，研究室同士の学生の交流を深めることができました。各競技の大会の結果は以下になりました。各研究室のみなさま，お疲れ様でした。今年度も頑張りましょう。

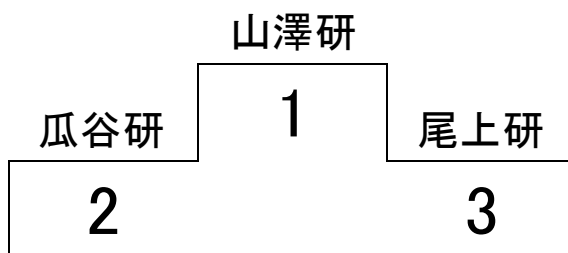
・フットサル大会



・ソフトボール大会



・リレー大会



お知らせ

1. 会費納入のお願い（重要）

会員の皆様との連絡を密にとりたいとの観点から、皆様にはお手数をお掛けしておりますが、会費を毎年納入して頂く形を取っております。年会費は 1,000 円です。7～8 年ほど前から会費収入が減少の一途をたどっており、このまま行きますと、同窓会活動を継続することが困難な状況となります。納入手続きのお手数はお掛けしますが、お忘れなく会費の納入をお願い致します。同封の振込用紙にてお振込みください（手数料は名原会が負担）。同封の振込用紙を用いない場合は、下記までお願いします（手数料をご負担頂くこととなります）。

◎ゆうちょ銀行より振り込む場合

加入者名 原子核工学科同窓会
口座番号 00880-8-79447

◎その他の金融機関より振り込む場合

銀行名 : ゆうちょ銀行
金融機関コード : 9900
店番 : 089
預金種目 : 当座
店名 : 〇八九 店（ゼロハチキユウ店）
口座番号 : 0079447

2. 各種証明書の請求について

卒業・修了証明書等、各種証明書をご入用の際は、直接工学部教務課へご請求下さい。その際には、下記のことを同封してお申し込み下さい。

- ・長型 3 号が入る返信用封筒（宛先記入，切手貼付）
- ・厳封か否かの指示
- ・学科，卒業年
- ・氏名，生年月日
- ・ローマ字綴り（英文の場合）

また、本人確認書類も必要です。詳しくは工学部のホームページをご覧ください。<http://www.engg.nagoya-u.ac.jp/alumni/certificate.html>

3. 名簿記載内容の変更・訂正

随時、名原会名簿の改訂を行っています。記載事項に変更のある方は、できるだけ全学同窓会の電子名簿管理システム（下記 URL）を通じての変更手続きをお願いします。<http://www.nagoya-u.ac.jp/for-alumni/index.html>

電子名簿管理システムをご利用いただけない方は、名原会への葉書、FAXのほか電子メールでもお受けいたします。名原会ホームページに名簿記載内容変更フォームを掲載していますので、ご利用ください。

4. 宛名ラベルの提供

宛名ラベルの提供を有償で行っております。ただし、用途は同窓会あるいは学科、研究室に関する活動に限ります。費用につきましては人数等で異なりますのでご相談下さい。

5. ニュース掲載記事募集

勤務先や住所変更等、また催し物などについて会員にお知らせしたい方は名原会までご連絡下さい。年に1回の発行ではありますが、名原会ニュースに掲載してお知らせいたします。

6. 個人情報の取扱いについて

名原会会員の個人情報の取扱いに関し、下記の項目をご確認下さい。

○登録の個人情報は下記の目的に利用します。

- ・会員名簿への掲載（工学部・工学研究科，全学同窓会も含む）
- ・本同窓会（工学部・工学研究科，全学同窓会も含む）からの各種通信文書の送付（会誌・同窓会関連行事案内等を含む）
- ・その他，会則に定める事項の遂行に必要と判断された諸事業

○会員名簿作成における自己情報の提供は任意です。

氏名以外で、名簿掲載を希望されない内容がございましたら、その旨、会誌「名原会ニュース」に記載されている問合せ先までご連絡下さい。なお、ご連絡のない場合は、内容に変更ないものとして名簿に掲載いたします。

○登録の個人情報は、委託先も含め機密保持には万全を尽くします。また、登録の個人情報は本学および同窓生以外の第三者へは開示いたしません。

○自己情報を照会したい場合は、会誌記載の問合せ先までご連絡下さい。ご本人と確認できた場合に限り開示いたします。

7. 名原会ホームページ URL 変更のお知らせ

平成 24 年 5 月に量子エネルギー工学教室のホームページがリニューアルされました。それにともない、名原会ホームページの URL が、以下の通りに変更となっています。お手数ですが、リンクや「お気に入り」に登録されている場合は変更をお願いします。

<http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/alumni/meigenkai.html>

会計報告

平成27年度 会計報告

収入

会費	241,370	(振込時手数料差し引き済み)
総会懇親会費	30,000	
繰り越し	245,016	
計	516,386	

支出

ニュース発行		
および発送	242,553	
総会懇親会	27,139	
卒業生との集い	18,000	(懇親会費)
(小計	287,692)	
来期繰り越し	228,694	
計	516,386	

編集後記

今年は昭和41年の原子核工学科設置からちょうど半世紀という節目を迎えるとともに、来年度に工学部・工学研究科の改組が予定されているという大事な年になっています。これらに関する最新の情報を記事に含めるために、例年に比べて名原会ニュースの発行が遅れました。

本ニュースは卒業生を中心におよそ1200名の方にお送りしています(このほかに、住所不明でニュースをお送りできない方がいます。お近くに「ニュースが届かない」と嘆いている同窓生がいましたら、住所登録をするようお伝えください。詳しくは本ニュース「お知らせ」の3をご覧ください)。皆様、各界・各分野でご活躍のことと推察しますが、社会でのご経験を踏まえた叱咤激励が現役の学生やスタッフ、ひいては量子エネルギー工学分野の将来を切り拓く力になります。教室の次の半世紀に向けて、ぜひ声をお寄せください。

(小島康明)

現役員

会 長	相良 明男	(昭和 49 年卒, 核融合科学研究所)
副会長	曾田 一雄	(昭和 52 年卒, 名古屋大学)
	有田 裕二	(平成元年卒, 福井大学)
幹 事	瓜谷 章	(昭和 59 年卒, 名古屋大学)
	柴田 理尋	(昭和 63 年修卒, 名古屋大学)
	柚原 淳司	(平成 3 年卒, 名古屋大学)
	森泉 純	(平成 3 年卒, 名古屋大学)
	小島 康明	(平成 6 年卒, 名古屋大学)
	伊藤 高啓	(平成 6 年卒, 名古屋大学)
	杉山 貴彦	(平成 7 年卒, 名古屋大学)
	渡邊 将人	(平成 7 年卒, 中部電力株式会社)
	渡辺 賢一	(平成 10 年修卒, 名古屋大学)
	富田 英生	(平成 14 年修卒, 名古屋大学)
	遠藤 知弘	(平成 14 年卒, 名古屋大学)
	平尾 茂一	(平成 15 年卒, 福島大学)
	林 裕晃	(平成 17 年修卒, 徳島大学)
	小川 智史	(平成 21 年卒, 名古屋大学)

名原会・名原会ニュース・名簿に関する問い合わせ先

〒464-8603 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部

物理工学科(Ⅱ系)量子エネルギー工学コース 名原会

TEL 052-789-2572 (小島康明, 全般)

e-mail y-kojima@nucl.nagoya-u.ac.jp

TEL 052-789-3606 (遠藤知弘, 名簿関係)

e-mail t-endo@nucl.nagoya-u.ac.jp

量子エネルギー工学コース事務室

TEL 052-789-3399 (道脇みやび)

FAX 052-789-3225

教室ホームページ <http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/>

名原会ホームページ <http://www.nucl.nagoya-u.ac.jp/alumni/meigenkai.html>